

特集 コロナに克つⅡ ～つながりを紡ぎ続ける

05

離れていても学生の支えになるように

—コロナ禍の大学生協と食に関する取り組み

山野 薫 (近畿大学生物理工学部 助教)



感染対策を行った生協食堂

新型コロナウイルス感染症の拡大により、大きく様相が変わったもののひとつが、大学である。授業は、感染状況に応じて、インターネットを使用するオンライン授業と教室での対面授業が適宜切り替えられ、現時点で全ての授業が対面授業に戻った大学はまだ限られている。クラブ活動等の課外活動には一定の制限が設けられ、大学祭などのイベントは2年もの間、中止か大幅な規模縮小に迫られている。大学内での活動のみならず、日常生活においても影響を受けた学生は多く、経済的に困窮する学生や、食の機会に困った学生は少なくない。このような大学および大学生の姿に連動して同じく大きな影響を受けているのが、大学生協である。特に食堂の運営に関しては、学生の食を支えるという重責と、感染を拡大させないことの両方をいかにして実現させるかという点で大きな葛藤を抱え、頭を悩ませてきた。

未だ終わりが見えないコロナ禍であるが、大学生協は生活必需品である食を提供するために様々な工夫を行い、状況に合わせた取り組みを行ってきた。本稿では、この2年間、大学生協が、学生の食についてどのように議論し、実際にどのようなアプローチをしてきたのかを紹介する。なお、特別な記述がない限り、本稿で述べる内容は、主に北海道、東北、東京、東海、関西北陸、九州の6ブロック(地区)の様子を総合したものである。

コロナ禍における大学および大学生協の様子

はじめに、新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめた2020年3月から現在までの間、大学や食堂を含む大学生協がどのような様子だったかを時系列で整理したい。

① 2020年3月～9月ごろ

2020年3月から5月の間は、一斉休校、全都

道府県への緊急事態宣言の発出があり、大学内に学生の姿がほとんど見られなくなった。生協食堂も全国のほぼ全ての大学で休業または超小規模営業を余儀なくされ、供給も量、金額ともに大きく落ち込んだ。学生の様子を把握することも困難になり、大学生協はほとんど身動きがとれない状況となった。

6月以降は、大学の授業は行われたものの、教室を使用しない遠隔授業やオンライン授業が中心となり、学内での活動は基本的には停止していた。そのため、学内人口は回復せず、生協の供給も停滞状態が続いた。

② 2020年10月～2021年3月ごろ

9月までに比べると、全国的に学内での活動を再開する傾向にあり、学内人口もやや回復した。しかし、12月の感染再拡大、1月以降の入試等への備え、大都市圏における2回目の緊急事態宣言発出やその後のまん延防止等重点措置の適用の影響を受け、学内活動の方針や許容範囲は短い周期で変更された。学内活動の状況が定まらないため、それに連動して、生協および生協食堂の供給も浮き沈みを繰り返した。また、この時期にはそもそも新型コロナウイルス感染症への対応方針が都道府県や大学ごとに異なっており、個別の大学生協単位ではともかく、ブロック単位や大学生協事業連合FS（フードサービス）事業部（食に関する事業を取り扱っている）では学生の動きを包括的に把握しにくいという課題が生じた。大学間で学内活動や生協の供給状況に大きな差が生まれ、特に大学生協事業連合FS事業部では対応に苦慮する場面が増加した。

③ 2021年4月～現在

新年度は、対面授業や学内活動を一定程

度許容した形でスタートした。しかし、2～3月の感染拡大の流れを十分に押さえ込めていなかったことや、大学生をはじめとした若い世代で感染者が急増したことの影響を受け、4月後半から再び、大都市圏を中心に緊急事態宣言（3回目）が発出された。ただし、学内活動を全面禁止とした大学は限定されたため、生協の供給も、前年のような大きな落ち込みは免れた。

緊急事態宣言の解除後は、学内活動のさらなる再開によって、学内人口に回復の兆しが見られたものの、デルタ株の流行や、特に東京を中心とした地域ではオリンピック後の感染拡大などもあり、前年同様に生協の供給は短い周期での浮き沈みを繰り返した。10月以降はワクチン接種が進んだことも手伝って、学内人口はさらに回復したが、最終的な生協の供給は、19年度比の6割程度にとどまる大学が多く、しかも、西日本や地方大学に限られた。

20年度に比べると、21年度の特徴には、感染拡大の影響が都市部だけでなく、地方にも及んだ点。そして、生協の供給は前年同様に、大学ごとには大きな差があるものの、ブロック単位で見た場合、ブロックごとの差は小さくなった点の2点が挙げられる。

コロナ禍における 学生の食生活・体調の変化

前述のように、学生不在となったキャンパスにおいては、大学生協と学生の関わりが希薄にならざるを得ず、生協が学生の様子を把握することも難しくなった。これは全国の大学生協に共通の状況であり、なおかつ、学生生活に深くかかわる立場としては大きな課題だったことから、全国大学生協同組合連合会（以下、大学生協連とす

る)では2020年の4月、5月、7月の3回にわたって、全国の大学生を対象に、コロナ禍における勉強・授業やアルバイトを含む日常生活の様子、困りごとについてのアンケート調査を実施した。ここでは7月実施分から、質問項目をふたつ抜粋し、コロナ禍における学生の食生活や体調にどのような変化が生じたのかを紹介する。

この調査では、食生活について、「食生活での不安があれば教えてください」という質問について、当てはまる選択肢をすべて選ぶ方式(複数回答)で回答を求めている。その結果、「栄養バランスが悪い」を選択した学生が3,249名にも上り、これは全回答者(9,086名)の35.8%にあたる。ほかにも、「体重が増えた」と回答した学生が21.9%(1,993名)を占めた。また、体調に関しては「最近の体調で気になることはありますか」という質問をしている。こちらでも複数回答で回答を求めたところ、「やる気が起きない」が46.0%(4,183名)、「目の疲れ」が45.3%(4,120名)、「ストレスを感じる」が41.5%(3,768名)となった。一方で、「特に問題はない」とした学生は17.3%(1,572名)にとどまった。

調査時期である2020年7月は、全国的に遠隔授業やオンライン授業が主として実施され、課外活動の多くは活動が停止されていた時期である。これらふたつの質問と回答を見る限りでは、学内活動の制限を含む、コロナ禍での生活の変容は学生の食生活や体調に相当の影響を及ぼしたと読み取れる。

なお、紙幅の都合から、ここでは以上の紹介に留めるが、当該アンケートでは学生生活に関する多くの質問がなされ、興味深い結果が得られている。本稿末尾の参考資料欄に結果の公表先を掲載するので、参考にされたい。

コロナ禍の大学生協における食に関する取り組み

以上のことを背景に、大学生協が学生の生活を食の面から支えるために行ってきた取り組みを具体例を挙げながらみていきたい。ただし、食に関する取り組みといっても非常に多岐にわたるため、①食事の提供方法に関すること、②食事機会の確保に関すること、③栄養面でのサポート、④経済面でのサポート、⑤生活必需品の提供、⑥人間関係の構築に関すること、の6つに分けて接近する。

なお、言うまでもないが、手指消毒用アルコール、カウンターにおける飛沫防止カーテン、卓上仕切りといった備品の設置、および、座席数の間引きや必要な距離の確保といった基本的な対策は大学生協のすべての食堂・店舗で実施している。

①食事の提供方法に関すること

大学における飲食品提供の中心である食堂は、言うまでもなく、休業や時短営業、規模を縮小しての営業をせざるを得なくなった。また、感染対策を行って営業を継続しても、座席の間引きによって収容人数が減少したことへの対応や、密を回避するための対策が求められたため、食事をとることに不便が生じないように、様々な代替手段が講じられた。

多くの大学生協では食堂や売店・購買以外の場所で弁当等の臨時販売を行った。それだけでなく、従来のテイクアウト商品に加えて新たなメニューの開発や、内製弁当(学内の施設で調理した弁当)の製造・販売を新規に開始した大学も多数あった。その他にも、カフェ業態(喫茶)の店舗を、テイクアウト商品の販売店舗に変更するという対応をとった大学もあった。また、食

堂における従来のカフェテリア形式の食事提供と並行して、食堂用メニューの一部をテイクアウト用容器に盛り付けて提供するという対応をとった大学もあった。東日本の大学ではこのようなメニューを「学食BENTO」と名付け、例えば盛岡大学生協では写真1のように日替わりで複数メニューを提供している。



写真1 盛岡大学生協における「学食BENTO」の案内出所：盛岡大学生協 Twitterより転載

②食事機会の確保に関すること

学内での活動機会が失われたことや、大学生協・食堂が休業・時短営業を行ったことの影響は、学生の食事機会の喪失という形でも表れた。そのため、各大学生協に直接寄せられた要望や地域の実情に合わせて、食事機会が確保できるような方法が検討されてきた。

2020年4月の一斉休校期間には休業した生協食堂も多かったが、九州・北陸等の地方は大都市圏に比べると感染者数がさほど多くなかったため、一人暮らしの学生の比率が高い国立大学を中心に、非常に厳しい感染対策を講じて、食事の提供を行った例がある。これは、市中の飲食店も休業したため、食事をとれる場所が著しく減少したという状況に鑑みたものだが、この取り組みに対しては、大学生協が対応してくれ

たので、安心だし、ありがたいという声もあった。

他にも、個別の大学の取り組みとして、大分大学生協では、無料通信アプリLINEを利用して学生のニーズを調査した。その結果、夕食営業への要望が多数寄せられたため、当初は昼食時間帯のみとしていた食堂の営業時間を夕食時にも拡大し、結果的に利用者も増加した。

東北大学生協では、一人暮らしの学生を念頭に、冷凍弁当の配達を開始した。これは、食堂で提供しているメニューを冷凍の弁当形式にして、学生の自宅へ届けるサービスである。5食分が1セットになっているため、2～3日は食事の心配から解放される上、ミールカードでの支払いが可能のため、金銭的な負担も多少軽減される。なお、当該サービスの開始にあたり、東北大学生協では急速冷凍機を導入した。

③栄養面でのサポート

前出の大学生協連のアンケート結果にも表れていたように、自らの食生活における栄養バランスの悪さを自覚している学生は多い。そこで生協でも、栄養バランスが偏らないような食生活の提案など、栄養面からのサポートも行った。

東日本の主要な大学では、食堂利用者だけでなく、食堂用メニューのテイクアウト利用者を対象に、栄養バランスを考慮した食べ合わせを提案するPOPを掲出した(写真2)。

また、本稿では省略したが、大学生協連アンケートにおいて、自炊機会が増えた学生が一定数存在することが明らかになったため、大学生協連と大学生協事業連合の管理栄養士が中心となって自炊レシピの提案を行っている。不足しがちな栄養素を手軽に補えるメニュー、お金と時間がなくても

**食事を
身につけよう**

メニュー毎に栄養価は異なるので、毎日異なるメニューから選ぶことで、マイクアウトでのご利用にもおすすめです。



**管理栄養士からの
食べ方提案**

※表示されている価格は、110%割で表示されています。マイクアウトの場合、8%割になります。 A 配 価

8/24
▼
8/20

秋の恵みトリアイ
イロツクらの実湯タケノコ

鶏ささげとこんにゃく
ライズ(中)

TAKEOUT...ON

標準メニュー			
ライス小の場合	1.2	0.3	5.0
ライス中の場合	1.2	0.3	5.31

8/31
▼
9/6

オクラの炒めし
マーボー豆腐
野菜いため(揚げ揚げ)

ライズ(中)

TAKEOUT...ON

標準メニュー			
ライス小の場合	1.7	0.3	5.39
ライス中の場合	1.7	0.3	5.7

9/7
▼
9/13

オクラの炒めし
鶏肉のたね玉め

色んぴらにほう
ライズ(中)

TAKEOUT...ON

標準メニュー			
ライス小の場合	2.0	0.7	3.7
ライス中の場合	2.0	0.9	3.4

9/14
▼
9/20

鶏子と豆腐の味噌煮
ローズかつ丼

色んぴらとほう
ライズ(中)

TAKEOUT...ON

標準メニュー			
ライス小の場合	1.4	0.6	7.4
ライス中の場合	1.4	0.6	8.9

写真2 食べ合わせ提案の POP
出所：大学生協事業連合・高橋氏提供

作れるメニュー、料理が苦手な人でも作れるメニューの3つにテーマを絞り、学生委員との調理実演会の実施や、大学生協連及び大学生協事業連合のHPへの掲載、冊子(データ版)の配布などを行って普及に努めている。レシピの詳細は、参考資料欄に掲載するURLを参照いただきたい。

オンラインでの食生活相談会を実施した大学生協も複数あった。食生活相談会は、コロナ禍以前も対面で行っていたが、自宅からでも栄養士に気軽に相談ができるよう、オンラインで実施することとなった。対面実施時に比べると参加者が少なく、小規模での開催となったが、学生からの、食生活に危機感を持っているが改善方法がわからない、といった質問に対してワンポイントアドバイスをを行い、好評を博した。食

生活相談会は、生協単独での取り組みにとどまらず、大学の保健センター等と共催した例もある。

TwitterやHPを利用し、食堂のメニューについての情報発信を強化した大学生協も多い。これは、学外からでもその日の食堂のメニューを知ることができれば、あのメニューを食べたいから食堂に行く、しっかり食事をとりたいたから食堂に行く、行動に結びつくのではないかと、という考えに基づいている。

④経済面でのサポート

コロナ禍では、アルバイト先が休業になるなどの理由から、アルバイトができない、あるいは時間数が減ったという学生も多数存在する。そのような学生にとっては、日々の食費は大きな負担となり、いかにして抑えるかが生活面での重要な課題のひとつとなった。

全国の多くの生協食堂では、学生の経済的な負担を少しでも軽くできるよう、割引価格でメニューを提供する機会を作った。ワンコインでの食事を可能にした「100円ランチ」や「100円弁当」は各大学や大学後援会等の支援を受けて実現した例が多い。また、全国の生協食堂にて期間限定で行った「ライス10円引きキャンペーン」は、農林水産省の協賛を受けたものである。他にも、地元のJAや生産者団体から食材の提供を受けた大学が多数あり、その食材を使用したメニューは割引価格で販売された。なお、提供を受けた食材は米が多く、これは長期保存が可能という理由に加えて、市中の飲食店の時短営業や休業に伴って、米の消費量が減少したため、大学生協で消費を促進してほしいという背景がある。割引価格でのメニュー提供は学生の家計に直接的な効果があるため、利用者か

らも大変喜ばれた。

また、一部の大学では、長期休暇や年末年始に帰省が叶わなかった学生が利用できるよう、長期休暇中の食堂の営業時間を拡大したり、食事費用の一部を大学側が負担した例もある。

また、本来は食費負担を軽減するための仕組みであるミールカードについても、食堂の利用回数の減少や営業時間の短縮を理由に、限度額まで使い切れないという声が寄せられた。そのため、返金や、利用対象を売店・購買で販売する商品にまで拡大した大学も多数あった。

⑤生活必需品の提供

経済面でのサポートと類似しているが、食料や日用品といった生活必需品（物資）の無料配布を実施した大学も全国に多数存在する。生活必需品の配布は、地域生協や地元の企業・団体から協力を受けて実現したのも多く、なかには、フードバンクのように日頃から生活支援のノウハウを蓄積している団体からの協力を得た大学もあった。

⑥人間関係の構築に関すること

これまでは、食事は友達や先輩後輩との繋がりを広げるためのツールのひとつであり、食堂は人が集い、人間関係を構築する場という役割を果たしていた。しかし、コロナ禍ではそのような機会は激減し、食堂は単なる「食事を済ませる場」となっている。また、1年生を中心とする少なくない割合の学生が、学内に友達がいない、という悩みを抱えるようになったため、感染状況が比較的落ち着いていた2020年9～10月ごろには、いくつかの大学においてサークル活動の勧誘や1年生向けの友達づくりのイベント等が実施されることもあった。

人と人とのつながりを大切に
龍谷大学生協

ひとり暮らしされている
1年生の皆さんと、
様々な方とご縁を
つなげる取り組みです。

参加
無料
ご縁
カレー

1年生でひとり暮らしをされている方には、前期が実家や後期になり始めて一人で暮らす、という方も多いためです。
前面接種は再開されましたが、社会情勢からどうしてもまだ限定され、また正課外でのともだち作り・共に過ごしたりといったことは制限されています。
寂しい思いをするときもあるからとれませんが、皆さんのことを多くの方が応援されています。
それを形にすべく、ご縁カレーを提供します。参加は無料です。
ひとりでも友達とでも、ぜひ食べに来てください。
あったかい食事をご用意してお待ちしています。
龍谷生協も、多くの協力者の方も、皆さんをこれからも応援し続けます！

日時	
深草	瀬田
12月11日(金)	1月14日(木)
18日(金)	15日(金)
1月8日(金)	18日(月)
15日(金)	それそれ夕食の時間前になり なります。 詳細はQRコードをご確認ください。
22日(金)	

お申込み

以下のコードよりお申込みをお願い致します。
食数限定ですので、予約が必須となります。

※ 対象は2020年に入学され、ひとり暮らしをされている方のみとなります。
※ 限定数に達した場合、メットとなります。
※ カレーの内容はご支援の食材や中身により都度変わります。

ご支援につきまして

主旨にご賛同いただける方は、店頭にて募金箱を設置しております。
また、食料など、支援金以外の形でのご支援もご相談ください。
是非みなさまのご縁もお待ちしております。

お問い合わせ

075-642-0213 (内線 1700)
専務理事 谷口一宏
k.taniuchi@ryukuo-coop.com

写真3 龍谷大学生協「ご縁カレー」の案内
出所：龍谷大学生協 HP より転載

なかでも、食を通じた企画として、龍谷大学生協で提供された「ご縁カレー」を挙げるができる(写真3)。「ご縁カレー」とは、日頃生協とつながりのある事業者から寄付を募り、一人暮らしの1年生に無料で振る舞われたカレーのことである。食事中は上級生が声をかけてコミュニケーションを図り、人との「ご縁」も感じてもらえるような時間にした。この様子はNHKの京都地域向けニュースでも紹介され、番組のHPより映像が閲覧できる。末尾の参考資料欄にて映像の参照先を示しておく。

また、市中の感染状況に応じて、大学側と相談の上で、パーティーの数を必要最小限にするなど、感染対策とコミュニケーションの場の提供が両立できるよう、柔軟な対策をとることを心掛けている

生協食堂もある。例えば、宮崎大学生協では、食堂を感染源にしないための対策会議を月 1 回程度設けている。この会議は、生協、大学の担当者に加えて、産業医がメンバーとなっていることが大きな特徴で、医学的な有効性だけでなく、学内の保健センターに寄せられる相談内容（コロナ対策で人に会わないことにより心への影響が出ている、などメンタルヘルスに関するものを含む）も重視して食堂内の感染対策を検討している。

まとめにかえて 一大学生協・生協食堂に、 今後、求められること

本稿では、2020 年 3 月以降の大学、および、食堂を中心とした大学生協の様子を紹介した。大学生協では、新型コロナウイルス感染症の拡大によって苦境に立たされた学生を食の面から支えるために、どのような方策が打ち出せるかを常に議論してきた。一回限りの企画から現在も継続中の取り組みまで、規模も大小さまざまだが、感染対策を行いながら学生の支援になることや学生の要望に応えられるようなことを積極的に行っている。

今後は、ブロックや大学によっては対面授業の割合が一層増加すると見込まれているため、利用者が集中する時間帯の混雑をさらに緩和するための対策や、短時間で食事を提供できるような業態を検討する必要があると考えている。また、感染が落ち着いている時期には、前述の宮崎大学生協のように可能な範囲で制限を緩和し、憩い・交流の場としての食堂の機能を回復したいという意向もある。

ところで、市中の感染状況や大学の活動方針にあわせて、時短営業や休業を繰り返

したことの影響は、生協自身にも重くのしかかっており、この 2 年間、全国の大学生協はほぼ例外なく、大きな赤字を計上している。また、元々、大学の食堂運営を担っていた一般の給食業者が撤退するケースも相次いでおり、そのあとを生協が引き受けるパターンも少なくない。

生協の供給高は学内人口との関連が大きく、仮に大都市圏や大規模大学において、部分的とはいえオンライン授業が継続されると、生協にとっては依然として苦しい状況が続くと予想されている。先が見通せない状況の中で事業規模を維持し、経営を成立させるためにどのような方策が打ち出せるのかが、すでに大きな課題となっている。

本稿の執筆にあたっては、大学生協事業連合東 4 地区 FS 事業部商品課の高橋亮子様にご協力いただきました。記して感謝申し上げます。

参考資料

大学生協連実施 学生アンケートの結果

『第 3 弾 大学生向けアンケート』7 月実施版 結果報告 (大学生協連 HP より)
https://www.univcoop.or.jp/covid19/recruitment_thr/index.html

自炊レシピの提案

「フライパン 1 つでできる、超カンタン★レシピ」 (大学生協連 HP より)
<https://www.univcoop.or.jp/parents/cooking/fryingpan/index.html>

龍谷大学生協「ご縁カレー」の紹介

「ワタシの半径 5 m コロナ禍の学生を支援する "ご縁カレー"」 (NHK 京都放送局 HP より)
https://www.nhk.or.jp/kyoto-blog/gakuseioun/index_2.html